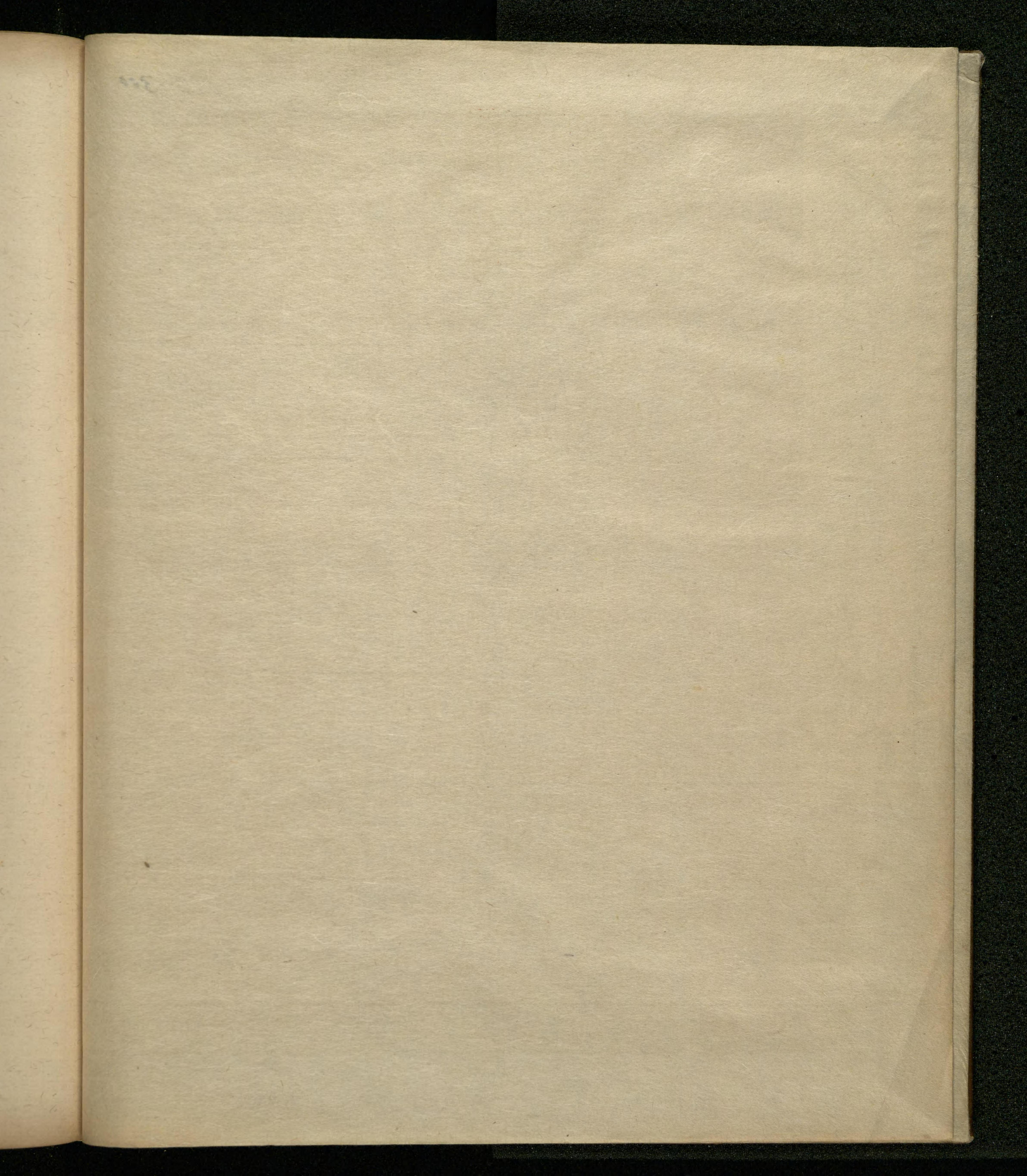


139
300

播磨國風土記

播磨国風土記



三條西伯爵家本 播磨國風土記 解説

古風土記の現代に傳はり存せるもの五種。常陸、出雲、播磨、肥前、豊後、五國の風土記これなり。しかもこれらのうち和銅の舊本といひつべきものは常陸國のこの國のとの二種のみなることは先哲の既に論せるところなるが、その著しき證はこの二國の分は後世某の郷といへるをばすべて里と記せるにあり。この里の名は大化以來の舊制にして靈龜元年の式によりて郷と改められたるものなればなり。

抑もこの國の風土記の一斑は釋日本紀、萬葉集仙覺抄等に散見する逸文によりて知るを得れど、その全豹を見るを得ざりしものなるを、寛政の頃柳原紀光卿が某家に傳へられたる寫本といふを寫されしより世に知らるゝに至りしものなり。その本の奥書に曰はく、

右播磨風土記以或家古卷令寫之當時出雲豊後之外諸國風土記逸於後人擬作者餘國驗有最可謂奇珍矣

寛政八年六月廿六日 同日令一校而所々有不審重以正本可校者也

正二位藤原紀光

これより後これを寫し傳ふるものも出で來て學者その珍重すべきを知りたれど、その所藏者を知らず、したがつてその原本を知るものなかりしが如し。

弘化嘉永の頃谷森種松氏この原本が三條西家に存するをき、前後六年の間懇請して終に借り得て寫したりしより世人はじめて原本の所在を明かに知るに至りしなり。その谷森氏の寫本の奥書に曰はく、



播磨國風土記ハ既ク亡セテ今ノ世ニハ傳ハラヌサキツトシ三條西家ノ文庫ニ古クヨリ秘藏タマヘル御書トモノ目錄ノ中ニタマハシ此書ノ名ヲ見出テコノ六年ノホト懇切ニネキマツレルヲヤウノコトシ三月廿三日コトサラニ召レテ御手ツカラ借シタマハリテ寫シト、ムヘキヨシ仰アリテイトウレシクヨロコハシクテスナハチ本ノマ、尔寫シヲヘヌ
嘉永五年二月廿九日

平種 案

これより後かの柳原家の寫本を基としたると谷森氏の寫本を基としたるとの二系統の寫本ありといへども、いづれも三條西家の本に基づけることは三者を相對比すれば直ちに知らるべきなり。かくて他の四國の風土記は次第に版本となりたれど、この風土記のみは版に上せられずして明治の御代に至りぬ。明治の初年神教叢語の第百二號第百三號にこれを載せたるを版に上せしはじめとす。明治二十年には敷田年治氏の標注播磨風土記の出版あり。明治三十二年に出版せられし栗田寛氏の標注古風土記にもこれを收め、又明治三十五年出版の改定史籍集覽にも亦之を收めたり。その栗田氏の本は谷森氏の寫本の系統にして、敷田氏の本は柳原家の寫本の系統なり。神教叢語の本は數本により考異を附せるが、その底本は谷森氏の本なるが如し。史籍集覽本は柳原家寫本の系統の本と谷森氏の寫本の系統の本と栗田氏本との三本を以て對校したり。而して以上の諸本誤脱少からず、通讀に易からず、原本の面影は谷森氏寫本の複寫によりて推測するに止まり、そも果して誤寫なきか否かは知るに由なく學者をして不安の感を懐かしめき。

以上の如くなれば、この風土記の研究には先づ三條西家の原本を見ざるべからざるものなるが、同家には存せりや否やは、又明かならざりしが、本會創立の當初直ちにこの原本の存否を確めむことを期し、植松安をして三條西伯爵家に就きて調査を請はしめ、現存するを知り得て、更に懇請して、こゝに複製するを得たるなり。

この原本は楮紙の卷子にして今は表紙も軸もなし。されど、末の三四寸許の部分の紙幅の天地を斜に截ちて軸に付くべきさまにつくりてあれば、古く軸あり

りしことは知らる。紙幅は九寸九分、紙数はすべて十六枚、初葉は長さ一尺五寸にして、第二葉よりは太抵毎紙一尺九寸あり。天地に墨界を施したれど、縦の罫はなし。一葉の行数は三十三行乃至三十五行にして一定せず。終の一葉は書寫十八行にして終り、次に四行分許を隔て、「粗見合了」と書し、その後六寸五分許の餘白あり。この書包紙に「播摩國風土記一卷」といふ端書あれど、表紙なく題簽なし。本書の巻頭一二葉闕け失せたること著しければ、古くは表紙もありしなるべし。一體に裏打を施したるが、その裏打は新しきものと見ゆ。恐らくは谷森氏が見たる嘉永以後なるべきか。書寫は平安朝の中期以後かと考へらるゝものなるが處々に見ゆる加除せる文字及び圈點了點などは本文よりは墨色濃く見ゆれど、同筆なり。而して末の「粗見合了」とあると墨色同じきを以て考ふるに、それらは、本書、書寫の時の校合の際に加へしものなるべし。朱書なし。

本書載する所は賀古郡（前缺）と傍磨、揖保、神前、託賀、賀毛、美囊の六郡とにして總説と赤石、赤穂の二郡の分とを闕く。かくてその總説と赤石郡の分とは巻首にありしものなるべければ、その賀古郡の前部の上につづきてありしが、切れ失せたりと考へらるれど、赤穂郡のなきは、如何なる理由なるかなは研究を要する事項たるべし。

本書の古典として貴重のものたることは今更論するまでもなきことなるが、本書の出でたるによりて従來學界の定説とも見られ來りしものを覆したる例あり。かの仙覺の萬葉集抄に引けるこの風土記の文にかの名高き大和三山の相闘ひし時、出雲の阿菩大神の諫めむとて上り來ましたる由の記事の中に「以此歌諫山」又「故號神集之覆形」とかける文句見ゆ。これによりて萬葉集略解などにはこの「神集」の文字を「カンヅメ」とよみてそれを印南郡の神詰といふ地にあてたるが、本書を見れば、上の文句は「此欲諫止」及び「故號神阜形似覆」とありて萬葉抄の文には誤あること知られたると同時にその地は「神阜」といふ名にしてこは揖保郡の條なれば今「神岡」といふ地をさせること明になれるが如きこれなり。

本書には書寫の上の誤脱少からず。然るに、その傳寫本及び板本には更に誤を加へたること少からず。今敷田氏の標注播磨風土記と栗田氏の標注古風土記とにつきて巻首の賀古郡の條の中にて原本と異なるものを對照して擧ぐれば次の如し。

原 本	敷 田 本	栗 田 本
一 行 オ 伊波都比古命	伊波都比古命	(原本ニ同ジ)
一 行 オ 南毗都麻島	南毗都島(麻ナシ)	(原本ニ同ジ)
一 行 ウ 即欲度到阿閑津	即欲度到阿閑津	(原本ニ同ジ)
四 行 ウ 津遂度相遇	此津遂度相遇(此字原本ニナシ)	(同 上)
二 行 オ 舩出	弘出	(同 上)
二 行 オ 舟舩原	舟弘原	(同 上)
二 行 オ 事焉上解同	事焉上解同	(原本ニ同ジ)

これを以て敷田氏本には誤極めて多く、栗田氏本にも亦誤ありと知るべし。これは實に巻首三頁に満たざる間に於ける事なれば、全部に亘ればその數少からざるを思ふべし。このうち「舩」は「引」字の異體にしてその扁の「弓」は古通じて「方」につくり、旁の「一」は古「人」の如くにつくれるものなるを寫生古字を知らずして「弘」とかけるによりて原本を見ざるが爲に誤りたるものなるが、これはもとより誤にはあらざるなり。概していへば、栗田氏の本はあるがうちに最信すべきものなるにはかくの如き誤少からず。栗田氏の本には又「原本の一行毎に」の印を附して考證に備ふ」とあれど、それにも誤脱頗

る多し。それらは本複製本と照し見れば直ちに知らるべきことなれば一々あげず。なほ栗田氏が原本に朱書ある由にいへる、それは谷森氏の傳寫本に朱の書入ありしをさせるものならむが、ふと見れば、三條西家の原本に朱書ある如くに解せらるべし。されどこは既にいへる如く原本には全く朱書なきなり。本書は上來述べし如く完全の書にはあらず。然れども天下唯一のものなれば、他に比照すべき類本もなきなり。この故に將來學者の研究に待つ所多大なるべきが、從來たゞ傳寫の本によりて推測するに止まりしかど、今幸に原本の眞面目を世に示すことを得たり。

大正十五年六月一日

山 田 孝 雄



望賢四方云也立年居望吾庶大而
 名山也古曰有
 名曰賀古郡將之時一鹿走登於此丘鳴其聲比之故号
 曰里此里有此礼墓坐神大御津安命所以号禰墓者昔
 大帶日子命誅尔南別嫌之御佩刀之八咫劍之上结尔
 八咫勾下结尔麻布都鏡繫時賀毛郡山直等始祖息
 長命一名伊志為媒而誅下行之時到攝津国高瀨之渚
 請欲度此河度子紀伊国人小玉申曰我為天皇誓人否
 尔時勅去朕公雖然獲度度子對曰遂欲度者宜賜
 度價於是即取為道行儲之弟縵投入舟中則縵先
 明炳然滿舟度子得價乃度之故去朕君洛遂到赤
 名郡廡御井供進御食故曰廡御井尔時尔南別嫌
 聞而驚焉畏之即遁度於南毗都麻鳩於是天皇乃到
 賀古松原而覓訪之於是白犬向海長咆天皇問云是

皇紀... 卷之... 天皇

大正
 15. 10. 4
 内交

纏入其尸於川中求南不得但得迎与禰即以此二物
葬於其墓故号禰墓於是天皇感悲誓云不食此
川之物由此其川年魚不進帝勢後得帝病勅云者
藥也乃造宮於賀古松原而還或人於此堀出冷水
故曰松原御井 望理里^{立中} 大帶日子天皇巡行之
時見此村川曲勅云此川之曲甚美哉故曰望理鴨波
里^幸 昔大帶造等始祖古理賣禰此之野多種粟
故曰粟^里此里有舟引原昔神前村有荒神每半
番行人之舟村是往來之舟志番尔南之大津江上於
以頭自賀意理多之谷弘出而通出於赤石郡林潮故
曰舟弘原又事与上辭同 長田里^幸 昔大帶日子命
事行別嫌之處道邊有長田勅云長田哉故曰長田里
驛家里^幸 由驛家為名一家云所以号尔南者穴洞
豐浦宮御宇天皇与皇右俱砍平筑紫又麻曾国下

豐澤... 行之時舟宿於爾南浦此時滄海其平風波和靜
故名曰入 尔南浪郡 大國里 所以号大國者百
姓之家多居此故曰大國此里有山名曰伊保山所以帶
中日子命乎坐於神而息帶曰女命孳石作連來
而求讚伎國羽若石也自彼度賜未定時盧之時
大來見顯曰羨保山，西有原名曰池之原，中有池
故曰池之原，南有作石形如屋長二丈廣一丈五尺高
亦如之若号曰大石傳云聖德王時世弓削大連所
造之石也

大石傳云

六謎里 所以号六謎里者已於見此里有松屋生
甘黃色似葦花體如鷲葉十月上旬生下旬至其味
其甘 益氣里 所以号宅者大帶日子命造時

七寸... 七寸... 七寸...

宅於此村故曰宅村此里有山名曰斗形山以石作斗
与斗氣故曰斗形山有石橋傳云上古之時此橋至天八
十人衆上下往来故曰八十橋 舍勢里 本名飄落 在中上可
以号飄落者難波高津清官清世不詳与取等遠祖他
田熊子飄涌著於馬虎求行家地其飄落於此村故曰
飄落又有涌山大帶日子天皇清世涌泉涌出故曰涌山
百姓飲者即醉相闐相亂故令埋塞後_庚壬午年有人
堀出于今猶有涌氣郡南海中有小嶋名曰南毗都麻
志我高穴穗宮清宇天皇清世遣九部臣等始祖此古汝
弟令定国堺尔時吉備此古吉備比賣二人參迎於是此古比
弟娶吉備比賣生兒尔南別嬖此女端正秀於當時令時
大帶曰古天皇欲娶此女下幸行之別嬖之即著者
疫件鳴隱居之故曰南毗都麻

飭磨郡

所以号飭磨者大三間津日子命於此處造屋
改而乘侍有大庚而鳴之尔侍王幼云位度鳥式女号

信月... 萬... 食... 月... 三... 戶... 一... 六... 九... 八... 七... 六... 五... 四... 三... 二... 一...

秋而座時有大度而鳴之尔時王勅云位座鳴戒故号

饒磨郡 漢部里 市上 右稱漢部者讚藝国漢人等

到未居於此處故号漢部 菅生里 市上 右稱菅生者

此處有菅原故号菅生 麻跡里 市上 右号麻跡者

品太天皇巡行之時勅云見此二者山能似人眼割下故号

目割 莫賀里 市上 右稱莫賀者伊和大神之子阿

賀比古阿賀比賣二神在於此處故取神名以為里

名 伊和里 船立波立 琴立迎立算立日子遂立 花立福立 曹立麻立大立 薩立藍立 市上 右号伊

和部者積端郡伊和君等換到未居於此故号伊和

所以号手薙立者近国之神到於此處以手薙草以為食

座故号手薙 一云韓人等始來之時不識用鎌但以手薙

稻故云手薙村右古立者已詳於上 昔大母命之子

火明命心行甚強是以父神惠之啟者棄之乃到目達

神山遣其子汲水未還以前即發船者去於是火明命

及水還未見船發去即火明命恐仍起風波追迫其船於

及水還未見船發去即火明命恐仍起風波追迫其船於

汲水還未見船發去即大噴恐仍起風波迫其船於
是父神之船不能進行遂被打破所以其波丘琴落
處者即号琴神丘箱落處者即号箱丘權迎落處
者即号迎丘箕落處者仍号箕丘甕落處者仍
處者仍日甕丘箱落處者即号箱丘禮丘曹落處者
即号曹丘沈石落處者即号沈石丘經落處者即号
藤丘康落處者即号康丘穴落處者即号穴丘鬻子
落處者即号日女道丘尔時大母神謂妻兮都此賣
日為道惡子返遇風波被太辛若哉所以号日噴塹日
告昏 賀野里 弊丘中上右稱加野者品太天皇巡
行之時此處造殿仍張政屋故号加野山川之名亦与里
同 所以稱弊丘者品太天皇到於此處奉幣地祇故
号弊丘 韓室里 草上村 右稱韓室者韓室首寶等上
祖家大富饒造韓室故号韓室 臣智里 大立丘 丘上下
右臣智等始屋居此村故目為名 所以云草上者韓人

...

右日知寺女...

山村等上祖柩臣智賀請此地而墾田之時有一聚草

其根尤臬故号草上所以稱大立丘者品大天皇立於此

竟之地取故号大立丘 安相里 長畝 古中、右所以安相

里者品大天皇從但馬巡之時緣道不檢御厨故号陰与前

仍因造豐忍別今被表名余時但馬國造朝臣令申給依此

枚罪即奉塩代塩田十千代有右塩代田飼但馬國朝來人

到來居於此處故号安相里 本名所尋云後里名依改 所以号長

畝川者昔此川生蔣于時賀毛郡長畝村村人到來葺蔣

余時此處石作連等為棄相關仍致其人即投棄於此

此故号長畝川本又阿胡屋命娶莫保村女孀於此村遂造

墓葬以後正骨運持去之云來枚野里 新羅訓 右稱枚野

者昔為少野故号枚野 所以号新良訓者昔新羅國

人奉朝之時宿於此村故号新羅訓 山名亦因 所以稱莖丘

者大汝少日子根命与日女道丘神期會之時日女道神於

此備食物及莖器等具故号莖丘 大野里 石城 古中、右稱

...

...

大野者本為荒野故号大野場宮傳宇天之傳世村上
足嶋等上祖惠多志貴請此野而居之乃為里名

所以稱砥堀者品太天皇之世神前郡与饒磨郡之堺

造大川岸道是時砥堀出故号砥堀于今猶在少川里

高瀨村豐國村英馬野射目
前檀坂父取山傳整 伊刀嶋 立中 志号松里嶋宮傳宇

天皇也松部弓未等祖田又利君鼻留志貴請此處

而居之故号松里以後貞宣年上大夫為掌之時改為小

川里一云小川自大野流來此處故曰小川 所以稱高瀨者

品太天皇登於夢前丘而望見者北方有白色物云彼何

物乎即遣舍人上野國麻奈毗古令察之申云自高處流

落水是也即号高瀨村 所以号豐國者筑紫豐國之神

在於此處故号豐國村 所以号英馬野為品太天皇此野

狩時一馬走逸勅云誰馬乎待從等對云朕御馬也即号

我馬野是時立射日之處即号射目前弓折之處即号

檀丘傳立之處即号傳立丘時是大北庶派海鷲故号仔

馬

相立河...
乃鴻莫保里

上右稱莫保者仔豫国莫保村人到来居於

此處故号莫保村 義濃里 繼潮 立下中右号義濃者讚

伎国祿濃郡人到来居之故号義濃 所以稱繼潮者昔

此国有一死女尔時筑紫国火君等祖 不知名 到来復生

仍取之故号繼潮 曰達里 立 右稱目達者息長帶

此賣命砍平韓韓国渡坐之時侍躬前仔太代 之神在於此處

故因神名 安師里 幸 右稱安師者倭穴无神戶託仕

以為里名 奉故号穴師 漢部里 多志野 阿比野 里名許於上右

稱多志野者品太天皇巡之時以鞭指此野勅云彼野者

宜造宅及鑿田故号佐志野今改号多志野 所以阿比

野者品太天皇從山方亭行之時從臣等自海首恭會故

号會野 所以稱手治川者品太天皇於此川洗侍手

故号手治川 生年莫有味 貽和里般丘北邊有馬墓池昔

大長谷天皇侍世尾治連等上祖長日子有善婢与馬

大長谷天皇侍世尾治連等上祖長日子有善婢与馬

大長谷天皇侍世尾治連等上祖長日子有善婢与馬

大長谷天皇侍世尾治連等上祖長日子有善婢与馬

大長谷天皇... 並合之意於是長日子特死之時謂其子曰吾死以後皆葬准吾即為之作墓第一為長日子墓第二為婢墓第三為馬墓併有二後上生石大夫為國司有之時新死墓邊池故名為馬墓池 所以稱饒磨淨宅者大雀天皇時世遣人宴意使出雲伯耆國幡但馬五國造等是時五國造即以此使為水手而向京之以此為罪所退於幡磨國令作田也此時所作之田即号意伎田出雲伯耆田曰幡田但馬田即彼田稻收納之淨宅即号饒磨淨宅又云賀和良久三宅

楯保郡 事明下 伊刀嶋 諸嶋之惣名也名品太天立射人目於饒磨射目前為將之於是自我馬野出牝鹿過此早入於海泳渡於伊刀嶋今時翼人等望見相踏云鹿者既到就於彼嶋故名伊刀嶋

香此里 本名鹿來墓 立下上 所以号鹿來墓者伊和大神長

因之時庶來立於山，孝，是亦似世至故号庶來，其後至。
道守臣為宰之時乃改名為香山，家内谷，即是香
山之谷，秋如垣迴故号家内谷，佐村，品太天皇巡行之時
櫻鷲竹葉而遇之故日佐村，阿笠村，仔和大神巡行之
時告心中熱而糖絕衣初故号阿笠，一云昔天有二星
落於地化為石於此人，衆集來談論故号阿笠。

飯盛山，讚伎国宇達郡飯神之妻名日飯盛大刀自此神度
來占此山而居之故名飯盛山。

大鳥山，鶴栖此山故大鳥山，栗栖里，所以名栗栖者難

波高，清宮天皇勅賜刊，粟子若倭部連池子，即將退來

殖生此村故号栗栖，此粟子由本刊後元温迴，川金箭，川

品太天皇巡行之時，御荊金箭落此於此川故号金箭

阿為山，品太天皇之世紅草生於此山故阿為山，注不知名之

鳥起正月至四月見五月以後不見秋似鳩色如紺，越部里

舊岩皇，子代星，所以号皇子代者，向宮天皇之世寵人，但馬

子代星

君小津蒙寵賜姓為皇子代君而遊三宅於此村令仕

奉之故日子代村後至上野大夫結卅戶之時改号越部里

一云自但馬國三宅
越來故号越部村

鶴住山

所以号鶴住者昔鶴住多此山故曰

為名欄坐山石似欄故号欄坐山侍橋山大母命積俵三

橋山石似橋故号御橋山

狹野村別君玉手等速祖本

居此内国泉郡因地不便遷到此立仍云此野雖狹猶可居

也故号狹野

出雲國阿蘇大寺開大倭國畝火香山耳

梨三山相關此欲諫心上來之時

此處乃開國一寺無之故号神阜上里里

立中下營生山邊故曰營生一云品太天皇巡行之時闢井此

里水甚清寒於是勅曰由久清寒吾意宗我志故曰

守我留殿里造殿山出故曰殿里

生柏早部里

國人姓為名立中

立野所以号立野者昔立師弩養宿祢注來於出雲國

宿於早部野乃得病死尔侍出雲國人未到連立人衆運傳

上川礫作墓山故号立野即号其墓屋為出雲墓屋

然田里

本名談奈志

立中下

所以稱淡奈志者伊和大神占國之

下... 立中下... 所以稱淡奈志者伊和大神占國之

有石穴中生補故号補故号補阜至今不生 廣山
舊名握 在中上 所以名都者可者石此賣命立於泉里波多
為社而射之到此處箭盡入地唯出垢許故号都可村
以後石川王為總領之時改為廣山里麻打里 昔但馬國
人仔頭志君麻良比家居此山一女夜打麻身麻置於已
旬死故号麻打山十八居此邊者至夜不打麻矣俗人云
讚伎国意此以品太 天皇之世出雲志薩大神坐於枚方
里神尾山每遮行人半死主尔時伯耆人小保立目播布
以漏出雲都伎也三人相憂申於朝庭於是遣領田部
連久等以令禱于時佐屋取於屋秋田作涌屋於佐山
而祭之宴遊甚樂即櫟山柏桂帶檜冑下於此以相歡
号廬川 枚方里 幸上 所以名枚方者河内国茨田郡枚
方里漢人來到始居此村故曰枚方里 佐此里 所以名
佐此者出雲之大神在於神尾以此神出雲国人經過此處

下
八
三
八
枚
方
里
幸
上
八
枚
方
里
幸
上
八
枚
方
里
幸
上

依此者出雲之九和 在村和 月一以和 出雲國人 此處
者十人之中留五人之中留三人故出雲國人等作佐比祭於
此里遂不和受所以然者比古神先来此賣神後來此男
神不能鎮而行去之所以女神惡怒也然後河内國茨田
郡枚方里漢人來至居此山邊而敬祭之僅得和鎮且此
神在名曰神尾山又在洗比祭處即号佐比里佐里 所以
名佐里者難波津宮天皇之世古筑紫田部令鑿此地之
時常以五月集聚此里飲酒宴故曰佐里 大見山所以
名大見者品太天皇登此山嶺望覽四方故曰大見清立
之處有盤石高三尺許長三文許廣三文許其石面生
有窟跡此名曰御皆及御杖之處三前山此山前有三故
曰三前山

御立阜 品太天皇登於此阜覽國故曰御立里大家里

舊名大 立中上品太天皇巡行之時營宮此村故曰大宮後至

田中大夫為室之時改大宅里大法山 今名勝部里 品太天皇

之七才乃大夫去改曰大夫山今所以号勝部者小治田河原天

田中大夫為室之時改大宅里大法山 今名勝部里 品太天皇

田中大夫為宣之月乃...
於此山宣大法故曰大法山今所以号勝部者小治田河原天
皇之世遣大倭千代勝部等令墾田即居此山邊故号勝
部里

上莒里下莒里里戶津勅田 宇治天皇之世宇治連等速
祖先太加奈弟八加奈志二人請大田村与留等地墾田此
鮮采時廝人以枋荷食具等物於是枋析荷落所以奈閑
落處即芳里戶津前莒落處即名上莒里後莒落處
即日下莒里荷枋落處即日枋田大田里 左中上 所以稱大田
者昔吳勝後韓國度來始到於此仔国名草郡大田村
其後分來移到於榻津国三嶋賀美郡大田村其又遷
來於楯保郡大田村是本紀仔国大田以為名也

言琴阜 右所以稱言琴阜者大帶日賣命之時行軍之
日法於此阜而教令軍中日此侍軍者慇懃勿為言琴
故号日言琴前敷山昔額田部連仔勢与神人腹大之洞
關之時打鳴鼓而之故号日敷山 石生極 石海里立惟阜

子人每...
每有...
支長...
丙...
行...
之...
是...
里...
中...
有...

右所以稱石海者幾波長兩里前天皇之世是里中有
 百便之野生百枝之稻野阿曇連百足仍取其稻獻之
 尔時天皇勅日宜銀此野作田乃遣阿曇連太牟治石
 海人夫令鑿之故野名曰百便村号石海也涌井野右所
 以涌井者天天皇之世造宮於大宅里關井此野造之
 涌殿故号涌井野 宇須伎津 右所以名宇須伎者大

滯日賣命將平韓國度行之時舟舩宿於宇須伎頭川之
 伯自此泊度行於伊都之時忽遭逆風不得進行而後舩
 趣下舟舩不得進乃追發百姓令引舟舩於是有一
 女人為資上已之真子而墮於江故号宇須伎新譯伊波
 須久

宇須伎 所以宇須伎者宇須伎津西方有絞水之割故号

宇須伎 即是大帶日賣命宿舩之泊伊都村 所以稱伊

都者舟舩水手等云何時將到於此所見之平故曰伊

都雀鳴 所以号雀鳴者雀多聚於此鳴曰雀鳴不生
 皆大

百足等先居

者者

高嶼 荻原里

高嶼 荻原里

韓同還上之時時船宿於此村一夜之間生荻根高一丈

許仍名荻原即闢溝井故云針間井其覆不難之

樽水溢成井故号韓清其水朝汲不出朝余造酒

殿故酒田舟傾乾故云傾田春米女等陰陪後替新

故云陰絕田仍荻多榮故云荻原也余祭神少足命坐

鈴翠里 所以号鈴翠者品太天皇之世田於此里鷹

鈴墮落求而不得故号鈴翠里 少宅里 本名漢口里

立下中 所以号漢部者漢人始之此村故以為名所以

後改日少宅者以原若使祖父娶少宅秦公之女即

号其家少宅後若使之孫智麻呂任為里長由此庚

寅年為 少宅里 細螺川 所以稱細螺川者百姓為

田闢溝細螺多仁此溝後終成川故曰細螺川 指保里中

所以稱粒者此里依於粒山故因山為名粒丘 所以号粒

丘天日槍守從韓國度來到於此頭川底而乞宿於此

壬天日槍守從韓國度來到於此頭川底而乞宿於此

丘天日槍令後朝國度奉至才... 國主改尋吾所宿之處志集

壬天日槍令後朝國度奉至才... 國主改尋吾所宿之處志集

葦原志集乎今日改為國主欲得吾所宿之處志集

即許海中今時客神以鈎欄海水而宿之主神即畏客

神之盛行而先欲占國巡上至於粒止以養之於此自以落

粒故号粒立其丘小石比能似粒又以此判地即後林履寒

泉涌海遂通南比之寒南濕生白木神山此山在石神故号

神山生榊子出水里此村出寒泉故曰泉為名立中義奈

志川所以号義奈志川者和大神子石龍比古命与妹石

龍賣命二神相競川水妹神啟流於北方越部村妹神

啟流於南方泉村今時妹神跨于山岑而流下之妹神見

之以為非理即以柏構寒其流水而後岑邊闢溝流於

泉村格爾妹神復到泉底之川流壅塞而將流於西方兼

原村於是妹神遂不許之而作密桶流出於泉村之田

頭由此川水絕而不流故号元水川 兼原里舊名倉立此上見里

品太天皇時立於櫛折山覽之時森然所見倉故名

倉見村今改名為兼原一云兼原村主等盜讚客郡校

見舟來其子之七寸文...

長川名在長門國長門郡長門郡長門郡長門郡

原速瀨里立寺依川瀨速瀨社坐神廣此賣命命故册

都此賣弟涼野廣此賣命之北立之時陳冰故日陳

野陳石邑寶里寺上麻都此古命治井滄糧即云吾占多

國故日大村治井慶号侍井村琴柄川神日子命之琴柄令

標此山故其山之川号日琴柄川室原山屏風如室故日室

原生人糸獨治監久都野麻都此古命告云此山踰者可崩故

膝外麻白木石灰日久都野後改而云守努其邊為山中尖為野柏原里

由柏多生号為柏原釜戶大神從出雲國來時以馮村里為

吳床坐而釜置於此此故号釜戶也不入奥而入廣此取依

贈食不入口而落於地故去此處遷他中川里立寺所以名仲

川者苦編首等遠祖大仲子息長帶日賣命度行於韓

國之時能宿淡路石屋之尔時風雨大赴百姓志瀨于時大中

子以苦作屋天皇勅云此為國留賜姓為苦編首仍居此

處故川号仲川里引能山近江天皇之世道守臣為此國之宰

造官能於此山令引下故日能引山山住鶴一云韓國野極枯

生人糸細年奇正工天皇之世有九詠

造官每才山山令多下胡日年多山山伯龍一云真匡至木

木之穴春時見夏不見生人參細羊昔近江天皇之世有九部

具也是仲川里人也此人買取河内国兔寸村人之賣劍也得

劍以後與家藏王然後苦編部大猪圍彼地之墟立中得此

劍立与相去迴一尺許其柄朽失而其刃不温光如明鏡於是

大猪即懷恠心取劍歸家仍托鍛人令燒其刃尔時此劍

屈申如地鍛人大驚不營而止於是大猪以為異劍獻之

朝庭後淨御原朝庭甲申年七月遣曾祢連磨返送本

處于令安置此里淨宅北山之邊有李五根至于仲冬其寶

不落祿加都城原難波高津宮天皇之世伯耆加具漏日幡

邑由胡二人大駢元節以清酒洗手是於是朝庭以為過度

遣持井連佐夜以此二人尔時佐夜仍悉禁二人之徒赴祭

之時屢清水中酷拷之中有女二人玉線手足於是佐夜佐

副之吞日吾此服部祿連娶因幡国造阿良佐加比賣

生子宇奈比賣又波比賣尔時佐夜駑之此是執政大

之女即還送之所送之處即号見真山所溺之處即号

文古本皮京里立上大申之子玉是日子玉是比賣

義四郡波原雲濃里村大神之子玉足日子玉足此書令
生子大石命此子稱於父心故日有怒塩沼村此村出海水故
塩沼村

宗永郡 所以名宗永者伴和大神國作豎了以後螺此川谷

尾巡行之時大麻出已古遇於矢田村尔勅云夫彼古在古故

故号宗永庶村名号矢田村 此治里 古中上 所以名此治者難

波長柄豊前天皇之世分備保郡作宗永郡之時山部此

治任為里長依此人名故日此治里 宇波良村 葦原志

許牟命占國之時勅此地小狹如室戶故日表戶此良美村

大神之禰落於此村故日禰村今人云此良美村 此音村

天日槍命宿於此村勅以音甚高故日以音村 庭音村

本名庭音 大神尚糧枯而生麵昂令釀酒以獻庭音而宴

之故日庭音村今人云庭音村 棄谷葦原志許牟命

与天日槍命二相棄此谷故日棄谷以其相棄集之由秋

如曲葛稱春夸 大神令春於此夸故日稱稱春前 生味

上更記川 己 P 家

如曲葛種春李 大祠令春木山李故曰種福春并栗
其類飛到之處即号擬前 高屋里^家上下^中所以名曰
高家者天日槍命告云此村高勝於他村故曰高家都太
川 衆人不能得稱塩村 處^之出鹹水故曰塩村牛馬等
嗜而飲之 柏野里^{上下}所以名柏者生此野故曰柏野 仔
加奈川葦原志許平命与天日槍命占國之時有斯馬遇於
於此川故曰坪奈加川 立間村 神衣附立上故曰立間敷草村
敷草為神座故曰敷草此村有山南方去十里許有澤二所
許此澤生菅作笠最好生柁松生鐵任。狼罽栗黃連葛等
飯戶集 占國之神炊於此處故曰飯戶集、秋亦似稻集
竈等 安師里^{本名}立中^上大神食於此處故曰須加後
所以号山守里然者山部三馬任為里長故曰山守今改名
為安師者安因師川為名其川者因安師比賣神為名仔和
大神將娶禊之介時此神固辭不聽於是大神大瞋以石塞
川源流下於三秋之方故此川少水此村之山生柁松里葛等

本名
...

川源流下於三秋之方故此川少水此村之山生柁松里葛等

川以流下村三開之方故北川少水山木之山年村木是也

住狼羅 石作里本名之下字 所以名石作者石作首等居

於村故度午年為石作里阿和賀山仔和大神之妹阿和加比賣

命在於此山故日阿和加山仔加麻川 大神占國之時為賊在

於此川故日為賊間川 雲箇里本名大神之妻許乃波奈仇久

夜比賣命其形為麗故日字番加波加村占國之時天日槍

命先到後得和大神後到於是大神大佐之玄非度先到之字

故日波加村到此處者不洗手是必雨其山生松柳里 街方里

本上 所以号街形者葦原志許乎命与天日槍命到故里五

志尔葦原各以里葛三徭者足授之尔特葦原志許乎命之

里一徭落但馬氣多郡一徭落夜夫郡一徭此村故日三徭天

日槍命之里葛皆落於但馬國故与但馬仔都志地而在之

一云大神為形見植街村於此村故日街形 大内川小内川

金内川 大者稱大内小内者稱小内生鐵者稱金内其山生松

林里葛等住狼熊仔和村本名神傳 大神藤涌此村故日街

通村又云此知村大神國來先後六六口等六或長交

和里其等任有自... 大和... 山...

和村又云於和村大神國作訖以後云於和等於我義岐

神前郡 右所以号神前者行和大神之子達石數命与使村

在於神前山乃因神在焉若故日神前郡暨里里 生野大内川 湯川 粟底

波有 加寸立下所以号暨里者昔大汝命与小比古尼命相争云

擔暨荷而速行与不下屎而速行此二事何能為乎大汝

命日我不下屎啟行小比古澤命日我持暨前啟行如是相

争而行之逐數日大汝命云我不能忍行即坐而下屎云

野小比古屋命嘆日然苦亦擲其暨於此里改号暨里又下

屎之時小竹禰上其屎行於水故号波自賀村其暨与屎成

石于今不王一家云品太天皇巡行之時造宮於此里勅云此土為

暨耳故日暨里 所以号生野者昔此處在葦神半致津来

之人由此号死野以後品太天皇勅云此為惡名改為生野

所以号粟底川内者彼自祖馬阿相郡粟底山流来故日粟

底川内 生倫 大川内因大志名 生檜松又有異 俗人卅許 湯川昔湯出此川故日

湯川 生檜松里葛 又在異俗人卅許 川邊里 勢賀川 砥川山 立下此村居於川邊故号川

又在異俗人卅許 砥川山 立下此村居於川邊故号川

号薩里尔除道天針云唐有玉言古之唐不玉

曹里者伴与都比古神与字知賀久牟豊留命相關之時

曹墮此里故日曹里 的部里 石坐神山 高野社 立中 右的部等

居於此村故日的部里 云石坐山者此山戴石久在豊穗命

神故日石坐神山 云高野社者此野高於他野又在玉依

依比賣命故日高野社 生槐社 託賀郡 右所以右託加者

昔在大人常勾行也自南海到北海自東巡行之時到来此

立云他立早者帝勾伏而行 此立高者申而行之高哉故

日託賀郡其踰迹覆載 成治 賀負里 大海山 其里村 立下上右田

居以上為名所以号大海者昔明石郡大海里人到来居於

此山底故日大海生松所以号荒田者此處在神名道主

日女命无父而生兒為之讓靈流作田七町七日七夜之間

稻成熟意乃釀酒集諸神造其子捧酒而令養之於是

其子向天日一命而奉之乃知其父後荒其由故号荒田村

里田里 表布山交向 里大羅野 立下上右以立里為名云表布山者昔宗

形大神 奧津鳴比賣命任仔和大神之子到来此山云我可

形大神奧津鳴此賣命任仔和大神之子到來此山云我可

开方和 身尸云此書合 任仔和 子至 身尸云此可

産之志訖故日表布山云交閑丘者宗形大神云我可産之月

盡故日交閑丘云大羅野者昔老夫与老女張羅於表布山

以楠禽鳥衆鳥多来真羅飛去落於伴野故日大羅野

都麻里 都多交此也山此也野 鈴堀山伴夜丘阿富山高瀬 立下上 所以号

都麻者播磨刀賣与舟波刀賣螺国之時播磨刀賣到於此

村汲井水而食之云此水有味故日都麻 云都太岐者昔

讚伎日子神誅沐上刀賣尔時沐上刀賣吞日否日子神猶福

而誅之於是沐上刀賣怒云何哉吾即雇達石命以兵相闘

於是讚伎日子負而還去云我其怯哉故日都岐云此也山者

品太天皇狩於此山一鹿立於前鳴聲此山天皇聞之即止翼

人故山者号此也山野者号此也野鈴堀山者品太天皇巡

行之特鈴落於此山雞求不得乃堀立而求之故日鈴堀山

伴夜丘者品太天皇舊大 名麻奈志 与猪走上此里天皇見之云

射卒故日伴夜里此大与猪相闘死即作墓葬故此里西有

大真可百山者又切奇云云可百云高類寸奇日百山

月不可馬式 可之富 承品 進部 行 鳴力

大天皇之世 品進部 等遠祖 前王 所賜 此地 故号 品進部

周云何鳥武阿從當麻品進部君前王谷日住於此鴨勅

今射時菽一天中二鳥即負矢從山岑飛越之處号鴨坂

落斃之處者仍号鴨谷者莫美之處者莫坂下鴨里有確

居谷箕頂屋谷此大世命造確稻春之處者号確居谷

箕量之處者号箕谷造頂屋 處者号頂屋谷 徠布

里 古中 所以号徠布者此村在井一女汲水即被吸沒故日

号徠布庶咋山右所以号庶咋者品大天皇狩行之時白橫

咋已古遇於此山故日庶咋山 品進部村 右号然者品

太 天皇之世品進部等遠祖前王所賜此地故号品進部

村 三重里 古中 所以云三重者昔在一女校篇以布果食

重居不能起立故日三重 楠原里 古中 所以号楠原者林生此

村故日林原伎頂美野 右号伎頂美野者品大天皇之世大

伴連等請此處之時喚因造里田列而問地伏尔時對日縱

衣如截橫底故日伎頂美野 飯盛高右号然者大世命

云歟 更三 更三 更三

衣如菴榻底故曰伎原美里

食原山在右野村

之^{云成}御飯盛於此嵩故曰飯盛山 梗里 右号梗里者大母命

令春福於下鴨村散梗飛到於此里故曰梗里有玉野村所以

者意美表美二皇子等坐於坐及囊郡志深里高宮遣山

部小楮誅国造許麻之女娘日女命於是根日女已依命訖尔時

二皇子相辞不娶于日間根日女老長逝于時皇子等大哀

即遣小立勅云朝夕日不隱之地造墓藏其骨以玉飭墓故

緣此墓号玉丘其村号玉野 起勢里 左下鬼川 中里川 右号起勢者居

勢部亦居於此村仍為里名鬼江右号鬼江者品太天皇也

播磨国之神村君在百八十村君而已村別相關之時天皇勅

追聚於此村志皆斬死故曰鬼江其西里流故号里川 山田里

寺下 猪飼野 右号山田者人居山際遂由為里名 猪養

野 右号猪飼者難波高津宮津宇天皇之世日向肥人朝戶

君天照大神坐舟於猪^持養來進之可飼所求申作仍所賜此

處而放飼猪故曰猪飼野 端鹿里 上下 今在其神 右号端

鹿野 寺中之者寸延菓子至此寸下之文乃之司司成文号端

處而放飼猪故曰猪飼野

神判云世臣臣者必雖不數草女更草
數草作苗代 川合里 立中上腹群治 右号川合者端鹿川底
与鴨川會村故号川合里腹群治 右号腹群者花浪神之
妻淡海神為退已夫到於此處遂惡瞋妻以刀辟腹後於
此故号腹群治其對等今元五截

美囊郡所以号美囊者昔大兄伴射報和氣命埤国
之時到志深里許曾社勅云此立水流甚美哉故号美囊

郡志深里 幸 所以号志深者伴射報和氣命侍食於

此井之時信深貝在上於御飯甚縁今時勅云此貝者於

阿波国和那散我所食之貝哉故号志深里於美未美

天皇等所以坐於此立者世父而邊 天皇命所斂於近江国

權綿野之時率早部連意美而逃來隱於權村石室然後

意美自知重罪乘馬等切斷其筋遂放之亦特物按等

盡燒瘞之即經死之尔天子等隱於彼此迷於東西仍

志深村首仔等尾之家所役也因仔等尾新室之宴而二

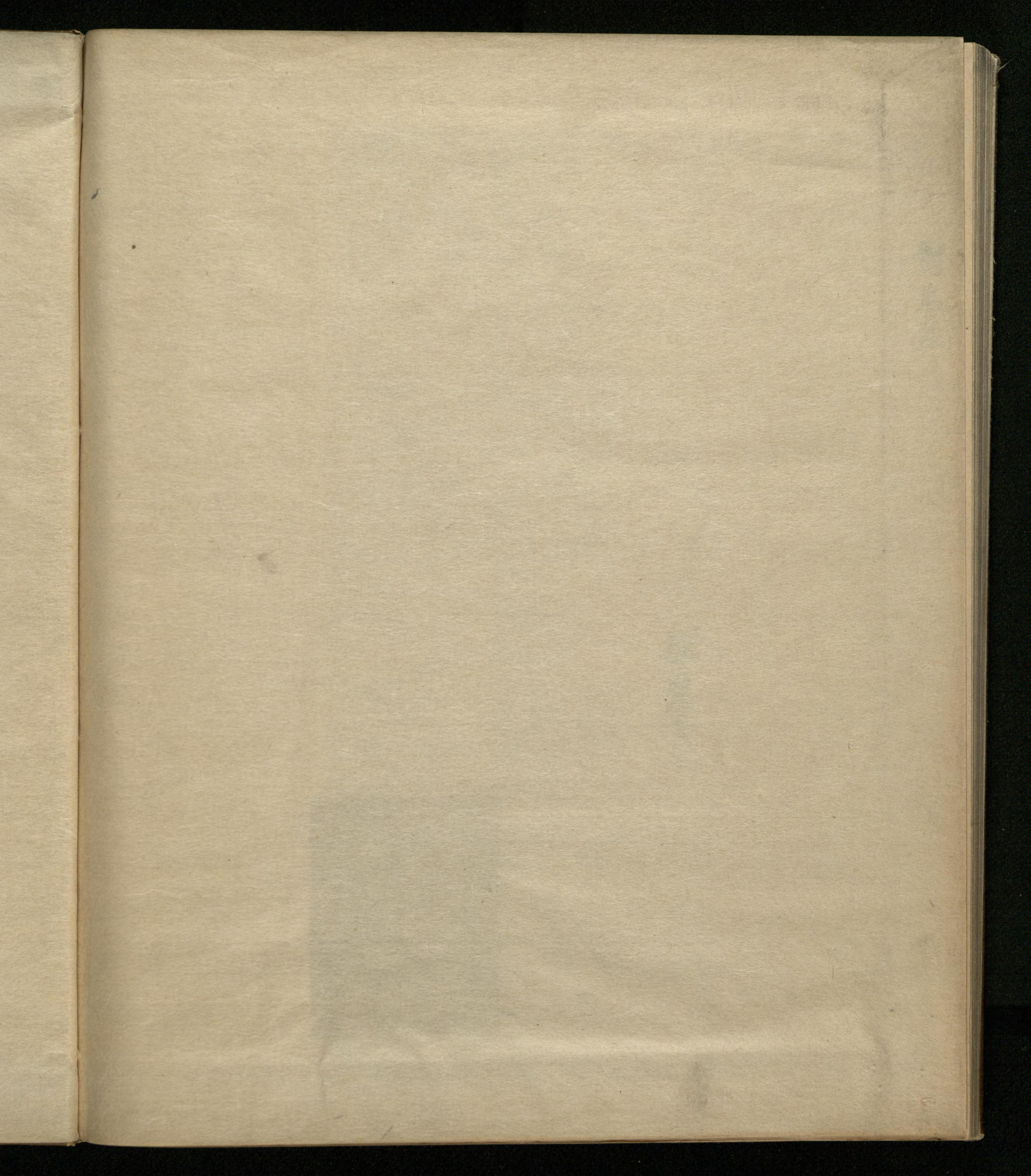
二等之蜀乃合妻手朱等下之平合月養少中三朱其等

志後村有仁壽片...
子等令燭仍令舉誅薛尔兄弟各相讓乃弟立誅其薛
日多良知志吉倫鐵使攀特如田打子栢子等吾將為禪又
誅其薛日淡海者水高因倭者青垣之山授坐市邊之
天皇序之未奴津良麻者即諸人等皆畏走出尔針間
国之山門領所遣山部連少栢相聞相見語云為此子母
母手白歎命盡者不食夜者不寢有生有死位戀子等仍
恭上破如右件即歡哀位還遣少栢之上仍相見相戀語自此
以後更還下造宮於此立而坐之故有高野宮少野宮以村宮
池野宮又造倉之處即号侍宅村造倉之處号侍倉尾高
野里坐於祝田社神玉帶志比古大稻女玉帶志比賣豐稻女
志深里坐於三垣神八戶挂頂侍諸令大物主等原志許
国暨以後自天下於三垣今吉川里所以号吉川者吉川大刀
自神在於此故云吉川里故野里因體為名高野里因
體為名

體
為
左

和
見
命

大正十五年三月廿五日印刷
大正十五年三月廿八日發行
發行兼印刷者 古典保存會
東京市下谷區上野公園東側
右代表者 七條 愷
印刷所 金屬版印刷所
東京市神田區花房町四番地
古典保存會事務所
振替口座東京四四九四八番



139
300

